

読む・知る・つながる大体大マガジン

# OUIHS

Vol.232 2024.4.1

JOURNAL

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

〈巻頭特集〉

楠本 JAPAN

つかめ!

48年ぶり自力五輪

〈旬な大体大生〉

ハンドボール女子日本代表

石川 空さん

ISHIKAWA SORA

大体大



大阪体育大学

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

## 自ら考える力を養い 未来社会で活躍しよう

学校法人浪商学園

理事長 野田 賢治



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。学園を代表して心よりお喜び申し上げます。

大阪体育大学は、学校法人浪商学園が設置する教育機関の1つです。浪商学園は1921（大正10）年に創立され、2021年、創立100周年を迎えました。学園の建学の精神は「不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」。この建学の精神を体現できる人材の育成を目指しています。

学園は創立以来スポーツ活動を奨励してきました。浪商高校第2代校長、野田三郎（大阪体育大学初代学長）は「スポーツを通じた青少年の健全育成」の理念の下、野球を筆頭に運動部活動を積極的に支援しました。その強い思いが大阪体育大学開学へ結びつきました。

大阪体育大学は、東京オリンピック開催の翌年1965（昭和40）年に開学し、今年で創立59周年を迎えます。開学にあたり、東京オリンピック選手強化対策本部長と選手団長を務められた後に日本人初のオリンピック平和賞を受賞された大島鎌吉先生（1932年ロサンゼルスオリンピック陸上三段跳銅メダル獲得）を副学長として、またオリンピックスポーツ科学委員で、後に日本体育学会会長に就任された加藤橋夫先生を学部長としてお迎えしました。

西日本初の体育・スポーツの専門大学として、体育・スポーツを通して0歳から100歳までの健康を維持することを標榜し、産業体育・社会体育・学校体育の3コース制で教育をスタートしました。当時、この分野で最先端におられた大島、加藤両先生の思いが、本学の教育の原点です。50年以上経過した今も色あせることなく、脈々と受け継がれています。

先日行われた卓球の世界選手権での日本チームの活躍は、私たちに多くの感動を与えてくれました。団体戦において世界一の中国チームにあと一步のところまで迫りました。終了後の中国選手の涙がいかに緊迫したゲームであったかを証明しています。

アスリートの勝利へのひたむきな姿に、多くの人々が勇気づけられたことでしょう。改めてスポーツの果たす役割に気づかされました。

21世紀に入り、時代は猛烈なスピードで変化しています。今まで考えられなかったような事が内外で次々と起こっています。

皆さんには急激な時代の変化に、柔軟な思考力で対応し、自ら考える力を養い社会改革に挑める、そんな大人になって欲しいと思います。

大阪体育大学での学びが、未来社会で活躍できる人間になるための近道となるでしょう。新入生の皆さんが、充実した学生生活を送られることを願ってあいさつとします。

## 明日の自分を描くために 自分のリミッターを外そう

大阪体育大学

学長 原田 宗彦



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは、高校入学時に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、部活動や大会、そして合宿などが中止や延期になるなど、多くの制限の中で高校生活をスタートされました。しかしその影響は徐々に薄らぎ、高校生活の後半はスポーツや勉強に存分に励まれ、その結果、本学に進学を決められたことはまことに喜ばしい限りです。

大学は高校と異なり、どのような授業を取るか、どのようなゼミを選ぶか、そしてどのような部活動やサークル活動を選ぶか、皆さんの意思と行動が尊重されます。また学外でのアルバイトやボランティア活動、そしてインターンシップなど、在学中の生活を自由に設計することができます。その一方で、「自由には責任が伴う」と言われるように、高校時代と異なり、大学生活における学びの成果は、皆さん自身の努力に委ねられます。何を目標にするのか、何を習得するのか、そして長い人生に備えてどのような準備をするのかなど、時間をかけて熟考し、早い時期に明確な指針を定めて欲しいと思います。

体育やスポーツ、そして教育の世界は広く、やりがいのある仕事が多くあります。幼稚園、保育園、特別支援学校、小学校、中学校、高校の教員、警察官、消防官、自治体職員といった就職先もあれば、大学院への進学を経て大学教員や高度な専門職を目指す道も拓かれています。さらにアスリートとして、国内外のプロスポーツや、実業団チームへの挑戦も可能です。加えて、多様なスポーツ関連企業や一般企業からの求人も多くあり、皆さんの将来には多様な選択肢と可能性が広がっているのです。

大阪体育大学は、皆さんの将来の進路選択に向けて手厚い支援を行っています。教員志望の皆さんには教職支援センターがあり、一般企業や公務員の就職に向けてはキャリア支援センターがあります。また部活動に熱中し過ぎて単位取得に黄色信号が灯った学生に対しては、学習支援室がサポートを行います。大学が提供するこれらのサービスを、早い時期から十分に活用して欲しいと思います。

人間というものは本来的に弱く、自分の能力の限界を自分で決めてしまう傾向があります。私が新入生の皆さんにお願いしたいのは、自分のリミッターを外すことです。自分で感じる心理的な限界を定めず、それを軽々と超えて欲しいと思います。これはスポーツでも勉強でも同じです。皆さんが今感じている「これ以上は無理」という限界は、現時点での限界です。大学とは、**明日の自分を描くために、大きく成長する機会を与えてくれる場所だ**ということを自覚し、充実した4年間を過ごして欲しいと願います。



スターゲイトホテル関西エアポートで行われた修了式・卒業式



式典に参加した卒業生



原田宗彦学長から学位記・卒業証書が授与された



# 修了式・卒業式を挙行

## サプライズで入学式も

令和5年度の第31回大学院修了式・第56回教育学部・第6回教育学部卒業式が3月19日、大阪府泉佐野市のスターゲイトホテル関西エアポートで行われた。

修了生・卒業生は、大学院生は博士前期課程23名、博士後期課程3名、学部生は教育学部518名、教育学部1336名で合わせて680名。

原田宗彦学長が博士後期課程の3名や博士前期課程と各コース代表の学生に学位記・卒業証書を授与し、スポーツや学業で優れた成績を収めた大島鎌吉賞、加藤橋夫賞などの63名を表彰した。

原田学長は続いて式辞に臨み、「皆さんの大学生活の4分の3は新型コロナウイルスの影響を受けて行動変容を迫られました、その中で新しい多くの学びを修めた皆さんを心から誇りに思います。ビジネスの世界では、将来の予測が困難な状態を表すVUCA（ブリーカ）という言葉があります。SDGsの進展、オンライン授業などの急速なデジタルトランスフォーメーション

(DX) など変化が加速し、不確実で予測困難な時代に生きる皆さんは、変化に対応する準備を怠らず、学び続けること、リスクリテラシーが必要で、卒業式は学びの終着点ではなく新しい学びの出発点です。VUCAが増す社会で学びと好奇心を忘れることなく、さらに成長されることを望みます」とあいさつした。

祝辞、記念品贈呈などの後、送辞は、在学生を代表して藤川奨太さん(教育学部3年)、謝辞は、大学院総代・前川賀洋さん、教育学部総代・福田萌乃さん、教育学部総代・山下鉄平さんが務めた。

式典終了後、各コースなどに分かれた伝達式では、修了生・卒業生一人ひとりにゼミの指導教員らから学位記・卒業証書が授与された。

伝達式の後には、謝恩会が5年ぶりに立食形式で開かれた。

また、修了式・卒業式に先立ち、新型コロナウイルスのため中止となつた令和2年度の「入学式」がサプライズで実施された。

(13ページに関連記事)

### 【大島鎌吉賞受賞者】9名

寺井捺貴(バレーボール部男子)=デフリンピック8位、藤井愛子、西川千華、松浦未南、和田薫、柿添まどか、竹内琉奈(ハンドボール部女子)=インカレ優勝、増田優一(DASH選抜アスリート)=BMX・W杯第4戦U-23 2位、藪田寿衣(同)=同第7戦U-23優勝

### 【加藤橋夫賞受賞者】1名

三原唯(教育学部・小学校教育コース)=学業成績全学1位

### 【博士後期課程修了者】3名

小笠原佑衣、横田文子、丸谷賢弘(敬称略)

## contents (学年は旧学年表記)

### 01 ごあいさつ

新入生の皆さんへ

### 02 修了式・卒業式

### 03 巻頭特集

つかめ! 48年ぶり自力五輪

### 05 大体大PEOPLE

東 拓司・昂学園高校教諭 野球部監督

### 07 NEWS

- 1 就職状況
- 2 教員採用試験
- 3 令和6年度入試状況
- 4 内田が日本ボッチャ選手権3連覇
- 5 学長特別表彰
- 6 大島鎌吉スポーツ賞

### 10 EVENT

- 1 能登半島地震復旧支援
- 2 OUHSスポーツキャンプ
- 3 博士論文発表会
- 4 ウィンターキャンプ
- 5 キャリアフェスタ
- 6 学生「夢」プロジェクト

### 13 コラム 窓

### 14 コラム ポーシャー

# つかめ！ 48年ぶり自力五輪

## [ ハンドボール女子世界最終予選 ]

ハンドボール女子のパリ・オリンピック世界最終予選は4月11～14日、ハンガリーで行われる。スポーツ科学部の楠本繁生教授が率いる女子日本代表「おりひめジャパン」にとって、自国開催で出場した東京五輪を除けば48年ぶりとなる五輪自力出場のラストチャンスだ。



楠本繁生監督

日本は昨年8月、広島で開催された五輪女子アジア予選にアジアからの1枠をかけて出場した。3戦全勝でライバルの韓国と対戦。引き分けでも五輪出場が決まる状況だったが、24―25で惜敗した。

しかし、9～10月のアジア競技大会（中国・杭州）では決勝で韓国を29―19で破り、雪辱。アジア大会では男女を通じて初となる金メダルを獲得した。

11～12月の世界選手権（デンマークなど）では、最終順位は17位だったが、3位の強豪・デンマークを27―26で破る殊勲の星を挙げた。

世界最終予選は、3つの開催地で4チームの総当たり戦を行い、上位2チームずつが五輪の出場権を獲得する。

日本は「トーナメント1」でスウェーデン、カメルーン、ハンガリーと対戦する。

## 楠本 JAPAN 「扉」こじあける

おりひめジャパンは世界選手権後、1月7～11日に石川県で強化合宿を行う予定だったが、能登半島地震の影響で会場を本学に移して実施した。2月26日から3月5日までポルトガルへ欧州遠征。3月14日からも福井県などで最終の強化合宿に臨み、最終予選に備える。

最終の強化合宿のメンバーは選手20人中、卒業生が13名、現役学生では石川空選手（体育3年、大分鶴崎高校出身）、吉野珊瑚選手（体育3年、名古屋経済大学市邨高校出身）が名を連ね、トレーニングパートナーとしてGKの比嘉楓選手（体育2年、那覇西高校出身）も帯同する。大半が楠本監督の教え子だ。

最終予選で戦うスウェーデンは世界選手権での順位は4位で、ハンガリーは10位、カメルーンは24位。17位の日本にとってカメルーン戦での勝利は絶対で、欧州の2カ国のどちらかに勝つことが最低限必要。難敵だが、世界選手権のデンマーク戦での勝利は大きな自信となる。

楠本監督は「これがラストチャンス。男子が出場を決めたほか、女子バスケットボールも最終予選を勝ち抜いて、他の競技から『女子ハンドも頑張ってる』と声をかけられている。48年閉ざされた五輪自力出場の扉をこじあけて、少しでもハンドボール界発展に貢献したい」と意欲を語っている。

### 〈世界最終予選〉

日時	日本時間	相手
11日 18:00	12日 01:00	スウェーデン
12日 20:30	13日 03:30	カメルーン
14日 19:15	15日 02:15	ハンガリー



本学での強化合宿に臨むおりひめジャパン



本学での強化合宿



インタビュー動画

# 旬な大体大生



インカレ決勝でー石川空



## 石川空選手「ハンド発展の重要なステップ」

48年ぶりの自力五輪出場に向けてカギを握るのが、現役学生として出場する石川空選手だ。

石川選手は、小学3年からハンドボールを始めた。中学では、日本一を学校のクラブで2回、大分県選抜で1回達成。大分鶴崎高校に進み、U12、U18、U20で代表チームを経験。ハンドボールの逸材として、順調に実績を積み重ねてきた。

自身のプレースタイルを「シュートバリエーションが豊富で、上からもアンダー스로ーからもシュートを打てる。仲間を生かすパスや視野を広く持つってプレーすることも自分の持ち味」と客観的に語る。2022年9月、日韓定期戦で初めてフル代表に選出された。楠本監督は石川選手の武器として、貴重なレフティ（左利き）であることとともに、大胆なプレー、物おじしない性格を挙げる。

2023年8月、パリ五輪女子アジア予選決勝（広島市）。楠本監督は石川選手の、その図太さへの期待もあったのだろう。韓国との大一番の後半10分ごろ、競った場面でのペナルティスローで、石川選手を起用した。

しかし、石川選手はペナルティスローを外す。「大事な場面で起用されたが外してしまい、個人的にすごく反省している」と今も語る。楠本監督は「普段は緊張しない性格だが、さすがにパリ予選では緊張していた」と振り返る。

雪辱の場は1カ月後のアジア大会（中国・杭州）だった。同じレフティで大体大の先輩でもあるスターティングメンバーの中山佳

穂選手（北國銀行）が肩を痛めたため、決勝の韓国戦で先発。60分出場し、チームで2番目の4得点を挙げ、金メダル。楠本監督が「石川にとって自信になった試合だ」と語る転機となった。

石川選手は中山選手を目標に挙げる。「同じポジションの先輩として尊敬すると同時にライバルとして負けたくない。いいところを吸収したい」と話す。

石川選手はハンドボールの魅力を「攻守の切り替えの激しさと接触の激しさ。『走る・投げる・飛ぶ』の運動の3大要素が入っていて、そこが面白い」と語る。

世界最終予選は、そのハンドボールがよりメジャーになるための重要なステップだと思っている。「男子は36年ぶりの自力五輪出場を決めて、日本リーグでも人気が始めている。女子も結果を残さないと、新しいファンがつかない。ハンドボールがメジャーになるために、世界最終予選で結果を出したい」と意気込んでいる。



関西スポーツ授賞式でスピーチする石川空



「下剋上球児」鈴木亮平さん演じる高校野球部監督のモデル  
母校のOBのつながりで甲子園に



三重県立昂学園高校教諭

東 拓司さん



インタビュー

東拓司（ひがし・たくし）  
46歳。大阪体育大学体育学部体育学科卒。三重県立久居高校から大阪体育大学に進み、久居高校で野球部コーチ、上野高校で監督を務めた。2013年、白山高校監督となり、2018年、第100回全国高校野球選手権記念大会に初出場。その過程はノンフィクション『下剋上球児』（著者・菊地高弘氏）として出版され、TBS日曜劇場でドラマ化された。2023年から昂学園高校。保健体育科教諭。

三重県の片田舎にある高校の弱小野球部が奇跡の甲子園初出場を果たすTBSドラマ「下剋上球児」。鈴木亮平さん演じる熱血監督のモデルが、大阪体育大学OBの三重県立昂学園高校保健体育科教諭、東拓司さん(46)だ。夏の三重大会で10年連続初戦敗退だった前任の白山(はくさん)高校に赴任し、5年後の2018年、夏の甲子園初出場。「日本一の下剋上」を成し遂げた「熱血監督」だ。

「教員資格あります」。今も胸ポケットに証拠の免許状

ドラマは昨年12月に終了したが、東教諭は現在も、胸ポケットに教員免許状のコピーを入れている。ドラマでは、鈴木亮平さん演じる越山高校の南雲監督は、教員免許がないことを隠して教壇に立ち、警察に自首する設定だった。「放送中は、教員免許の件は『これは本当の話か』とけっこう聞かれました。忙しかったですよ」と笑う。TBSからは事前に、教員免許の件も含め、フィクションを交えた設定でいくがどうかと聞かれたという。「ドラマになって本当に良かったと思います。脚色はあっても、高校野球にスポットライトが当たり、小さい学校が頑張って甲子園に行くところは現実と同じ。その過程を鈴木亮平さんに演じていただき、すごく良かった」。愛する高校野球がドラマ化されたことに、感謝している。

大阪体育大学で

「上原浩治さんは雲の上の人」

東教諭は小学生のころから、ソフトボール、その後野球を始めた。地元の三重県立久居高校で野球部の監督をし

ていた父弘之さんの影響という。父は土日もほとんど家にいなかったが、たまに父としたキャッチボールの楽しさを覚えている。

久居高校では外野手を務め、夏の三重大会でベスト4。いいところまでは行ったが優勝できず、高いレベルで野球をしたいという思いから、大阪体育大学に進んだ。2学年上には上原浩治投手(元巨人、米大リーグレッドソックス)がいた。また、両親とも教員で、教員志望だったのも大阪体育大学を選んだ理由だ。

上原投手は雲の上の人だった。「ボールの切れも、野球に取り組む姿勢もすごかった」という。

また、中野和彦監督(現GM)は「選手の自主性」を最重視していた。

「自由な時間は多いけれど、自分たちで練習メニューも含めてしっかり考えてやらないとだめ。先輩や学生コーチに教えられ、自分で工夫しました。それが体大のいいところだったと思います」

高校野球の監督になりたくて教員免許を取り、卒業後、母校の久居高校に講師として赴任し、野球部のコーチに。しかし、野球に没頭しすぎて教員採用

試験に合格できず、6年目に昴学園高校に移って、寮監として野球から離れて試験に集中した。2007年、教員採用試験に合格して三重県立上野高校に赴任し、念願だった野球部の監督になった。上野高校は100年以上の伝統がある進学校で、勉強時間を確保するためクラブ活動の制限も多かったが、三重大会でベスト4、東海大会も経験した。

### 下剋上の道は草むしりから

2013年、白山高校への内示が出た。「次は、クラブ活動に規制のない、もっと野球ができるところに行けるだろう」と思っていたが、10年連続で夏初戦敗退の弱小校だった。

赴任が決まった3月、グラウンドを見に行くと、内野は全面、ひざまで草が伸びていた。野球部だけでなく他のクラブも全然、活動していない。「これは大変なところに来た」と覚悟した。

4月1日に着任。グラウンドに行くのと、3、4人部員がいた。「そこからのスタートでした」。ドラマでは、小日向文世さん演じる大地主が立派なグラウンドを整備したが、現実の下剋上への道は、草むしりから始まった。

「その後3年間は、頑張ったが何も変わりませんでした」。部員が足りない。中学校に、野球部員の白山への入学をお願いしに行った。道具もなかった。他校で監督を務める大阪体育大学の先輩に電話して練習試合を頼み込み、0-20で負けた後、「先生、負けたのに申し訳ないですが、捨てるようなボール

があつたらください」。バスにボールを積んで帰り、練習した。

### 母校のつながりがなければ甲子園に行けなかった

そんな学校がなぜ、甲子園に行けたのか？

ドラマでは、鈴木亮平さん演じる南雲監督がおんぼろバスを運転し、練習試合を重ねて強化につなげた設定になっていたが、これは実話だ。

東教論は近畿を中心に、大阪体育大学の先輩やその知り合いに電話をしまくり、バスのハンドルを握って、年に150、160試合も練習試合に出かけた。

東教論によると、三重県では、大阪体育大学を卒業した野球部監督、部長、コーチが多く、20年ほど前から孤野高校の戸田直光監督を中心に、大阪体育大学OBが率いるチームが夏休みに「三重県大体会交流戦」を実施している。現在は東海、関西にも広がり、約40チームが三重に集まっているという。

「卒業生みんなが縁を大事にしています。うちが本場に弱い時、嫌な顔もせず相手をしてもらい、ボールをいただき、教えてもらうこともありました。この卒業生同士のつながりがなければ、(甲子園出場、ドラマなど)こんなことにはなっていない。体大のいいところですよ」

4年目、一気に15人ほどの新入生が入部した。彼らが1年生から練習試合を重ね、3年生になった2018年夏、ドラマは起きた。決勝の前日に主将がインタビューで「明日、日本一の下剋上を

します」と答えたのも、実話だった。

### 鈴木亮平さんの役作りにかけるすごい

決勝の舞台は四日市市の霞ヶ浦第一野球場。ここでドラマの撮影も行われた。東教論はこの球場や東京で3回ほど鈴木亮平さんに会った。鈴木亮平さんは三重大会や甲子園の白山高校の試合をVTRで何度も見ていたようで、「試合でのあの仕草はどういう意味ですか」「ベンチではどのあたりに立っていますか」「サインの出し方は」などと細かく尋ねられた。「物腰が柔らかく真摯な方でしたが、事実になるべく近づけようという役作りの努力はすごいと思いました」と振り返る。ドラマが始まると、学校や周囲の人は「鈴木亮平さんのベンチでの仕草が、東監督によく似ている」と驚いたという。

### 大体会ネットワークで下剋上第二幕を

2023年4月、山あいの大台町にある全寮制の昴学園高校に赴任した。

白山高校で10年が過ぎ、新たな環境でチャレンジしたいという思い、さらに教員採用試験に合格できた昴学園への恩返し思いから、転任を希望したという。

昴学園も16年連続で初戦敗退を続けていたが、野球部長だった昨夏に1勝。秋から監督を務める。「白山で甲子園に出た後は毎年、甲子園をめざしていましたが、ここではまた1回戦突破からのスタート。甲子園には一歩ずつ近づいていきたい」。前監督の高橋賢野球部

長が部員が少ない時代から少しずつ強化して、今は、部員は30人ほどいる。高橋部長も大阪体育大学OBだ。今年2月には元智弁和歌山監督の名将、高嶋仁さんが来校し、バッテリーなどを指導してもらったが、これも智弁和歌山OB会の大阪体育大学卒業生の尽力で実現した。朝明高校ラグビー部を花園常連に育てた斎藤久元監督ら他競技の大阪体育大学出身の指導者とも交流し、母校のネットワークは白山時代と変わらず、大きな支えになっている。

### 高校野球の魅力とは？

東教論に聞くと、「あれだけ熱くなつて野球をやることは人生の中でも、そうはない経験。最後の夏、集大成の試合は、ベンチで監督をやっているもしびれるし、すごくいいものだと思います」

一方で、高校野球の変化も感じる。「昔はガッツでいけるところを諦めるという粘り強くない子どもも増えていきます。しかし、高校野球にかける思いや気持ちは変わらず根底にあると思います。その引き出し方を自分で探りながら、やっています」

2月のある日、冷たい風が吹くグラウンドを訪れると、ノックを打つ音、部員の声が響いていた。「おーい、捕れるやろ」。サードやショートが飛び込んで球際ぎりぎりでも捕れるかどうかの位置に何度も打つ。「ノックで選手の気持ちを引き出したい」。部員も実に声がよく出ている。下剋上第二幕の幕は上がるか。

## 就職状況

## 公務員合格 最多97人

## 過去10年、企業も高評価

2024年卒業予定者の就職活動が終了した。

2020年以降、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、採用面接試験はオンライン形式が多く導入された。コロナ収束後もオンライン形式での面接はあり、学生は柔軟にオンライン会議システムを使いこなして選考に挑んだ。対面に戻った採用面接試験も多く、キャリア支援センターでは、学生がどちらの方式にも対応できるように、オンライン形式、対面形式、双方の採用面接試験対策や講座の充実に努めた。

令和5年度の公務員現役合格者数は、過去10年で最多の97人（延べ）。内訳は、国家公務員（刑務官・自衛官・海上保安官）が6人、地方公務員（警察官・消防官・行政職）は91人。コロナ禍以降、さらに公務員人気が高まる中、キャリア支援センターとして公務員コース2期生たちへ、「公務員革命」をスローガンに、学生たちが粘り強く取り組んだ成果が出た。

恒例の全学イベントである「キャリアフェスタ」も、今年度は対面開催を復活させることができた。

キャリアフェスタ3年生対象は8月に開催し、大手業界の人事担当者による講演を含め、2日間で全24の企業・団体に参画いただいた。1、2年生対象は2月に開催し、2年生対象のイベントでは、今年、内定、合格が決まった4年生30人が後輩に向けて熱く語った。また、1年生は「将来について考えよう」をテーマに、大阪府教育委員会保健体育課・坂垣友裕氏（本学37期生）、大阪体育大学大学院生で元Jリーガー・鹿山拓真氏による特別講演を配信した。

キャリア支援センターの特徴の一つである「学内セミナー」は、対面開催に戻り、本年も多くの企業団体の協力で、昼休みに説明会や業界研究をする学びの場として実施した。

近年、卒業予定者の約50%が企業等（企業、スポーツ関連、医療、福祉、自営業）に進み、高い就職率を残している。各企業から非認知能力の高い本学学生に対する評価は高く、本学の学生に対する期待も一層高まっていると感じる。

## 【キャリア支援センター】

## 教員採用試験

## 61人現役合格

## 早期化への対策急務



令和5年度実施（6年度採用）の公立学校教員採用試験の現役合格者は、24の自治体で延べ61人となった。教育学部では、実合格者が48人と過去最多となった。

内訳は、大阪府16人、大阪市1人、堺市1人、兵庫県1人、神戸市4人、滋賀県2人、和歌山県2人、北海道1人、横浜市3人、川崎市1人、岐阜県2人、三重県1人、鳥取県6人、島根県1人、岡山市1人、山口県1人、香川県1人、愛媛県6人、高知県2人、福岡県4人、北九州市1人、熊本市1人、鹿児島県1人、沖縄県1人。合格している自治体も北海道から沖縄県まで全国に広がっている。

学校種別では、小学校（小中いきいき連携を含む）39人、中学校14人、高等学校1人、特別支援学校7人。

文部科学省は令和5年5月、6年度実施の公立学校教員採用選考試験の早期化（従来より約1カ月早い6月16日を一つの目安

としてできるだけ前倒し実施）、複数回数実施（条件によって大学3年生も受験できるようにすることや秋期試験実施）などの具体策を自治体に示した。これにより、教員採用試験も大きく変化している。

今年度は一部の自治体において、大学3年生で第一次試験が受験可能となった。本学でもいち早くこれに挑戦した3年生がおり、一定の基準を満たすことができ、4年生で受験する第一次試験の一部が免除となっている。

今以上に、教員採用選考試験の動向に注視し、早期からの対策が求められる傾向となった。

各学部の先生方の対策とは別に、教職支援センターでは、教員採用試験対策模試、各種支援講座、オンライン講座、全自治体の教採過去問貸し出し等の他に、校長経験のあるスタッフが面接指導だけでなく、教採への勉強の進め方など全般的な悩み相談にも対応して、学生一人ひとりに寄り添って採用試験受験に向けてのサポートをしている。

教員を目指す学生にとって、教員採用試験の合格はゴールではなくスタートである。教育現場は日々変化しているうえ、学校現場に出れば新人教員といえども「即戦力」として、役割を担っていかねばならない。教員の仕事は、そこに子どもがいてくれるので成立する。常に謙虚で真摯な気持ちで「学び続ける教員」になれるよう頑張ってもらいたい。

## 【教職支援センター】

## 令和6年度入試

### 「新課程入試」を控え 年内入試の人气が加速！

令和6年度入試は、令和6年4月1日に体育学部を組織改正して新たに誕生するスポーツ科学部の第1期生を迎える入試として実施された。

志願者数は、スポーツ科学部が896人で前年度比2%増、教育学部は371人で18%増となり、総志願者は1,267人で6%増となった。

総合型選抜の自己表現型は、昨年度から採用した、「資格や高等学校での活動実績」を加点する制度を導入した効果もあり、スポーツ科学部は146人で前年度比6%増、教育学部は72人で50%増の218人が志願した。また、今年度から大学入学共通テスト利用選抜の代わりに総合型選抜（後期）を新たに実施し、18人が志願した。

#### <スポーツ科学部>

入試制度	学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
総合型選抜	スポーツ科学科	95	187	182	156
総合型選抜・後期	スポーツ科学科		14	14	3
スポーツ特別総合型選抜	スポーツ科学科	120	166	166	165
DASH アスリート特別総合型選抜	スポーツ科学科	5	2	2	2
卒業生子女型選抜	スポーツ科学科	—	18	17	17
学校推薦型選抜 ※内部・指定校推薦を含む	スポーツ科学科	200	350	336	265
一般選抜	スポーツ科学科	100	158	157	33
外国人選抜	スポーツ科学科	若干	1	1	0
合計	スポーツ科学科	520	896	875	641

#### <教育学部>

入試制度	学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
総合型選抜	教育学科	25	72	71	60
総合型選抜・後期	教育学科		4	4	1
スポーツ特別総合型選抜	教育学科	5	5	5	5
DASH アスリート特別総合型選抜	教育学科		0	0	0
卒業生子女型選抜	教育学科	—	5	5	5
学校推薦型選抜 ※内部・指定校推薦を含む	教育学科	50	174	166	101
一般選抜	教育学科	45	111	109	30
合計	教育学科	125	371	360	202

学校推薦型選抜は、昨年度まで3つの型全てで「国語（必須）、英語・世界史・日本史（1科目選択）」の受験が必要だったが、今年度から自己表現型、体力評価型では学科試験を廃止し、教科型も「国語」のみで受験可能と大幅に変更した。

また、年内入試の人气が継続している中、一般選抜ではスポーツ科学部の志願者が158人で前年度比17%増、教育学部は111人で前年度の54%増という結果となった。

各大学で定員割れを防ぐために年内入試で定員を確保する流れが加速しており、本学も同様の方針で入学生の確保に取り組み、今年度は良い結果となった。令和7年度入試は「新課程入試」が実施されるため、受験生がより受験しやすいように選抜方法や、より効果のある募集活動の検討を行っている。

【入試部】

## 日本ボッチャ選手権 内田選手が3連覇



3連覇を決め、涙をこらえる内田選手



メダルを手にする内田選手

第25回日本ボッチャ選手権大会が1月19〜21日に東京で行われ、2022年世界選手権優勝のアダプテッド・スポーツ部・内田峻介選手（教育学部3年）がBC4クラス男子で大会3連覇を果たした。

内田選手は決勝で東京パラリンピック代表の江崎駿選手（トランコム）と対戦。第1エンドを1-0、第2エンドを3-0とリードし、第3エンドで4-3と追い上げられたが、第4エンドで突き放し、7-3で勝利。「アダプテッド・スポーツ部のコーチや仲間ら周りの多くの人に支えられ、『今、自分でできることを最大限する』をテーマに取り組んだ結果が3連覇につながった」と涙ぐんだ。

# 学長特別表彰

国内外で活躍 3クラブと9選手に



学長特別表彰が贈られた団体・個人は次の通り。

### 【団体】

硬式野球部女子＝第19回全日本女子硬式野球選手権大会 3位  
 ハンドボール部女子＝第59回全日本学生ハンドボール選手権大会 優勝  
 アダプテッド・スポーツ部＝第21回日本車椅子ハンドボール競技大会 3位

### 【個人・世界】

白石美優(体育3年)＝第3回BFA女子野球アジアカップ 優勝／第9回WBSC女子野球ワールドカップ・グループB 出場  
 増田優一(体育4年)＝UCI BMXレーシングワールドカップ第4戦 U23 2位  
 三次真歩(体育1年)＝FIBA 3×3 U18ワールドカップ 3位  
 石川空(体育3年)＝第19回アジア競技大会(ハンドボール競技)優勝  
 内田峻介(教育3年)＝ワールドポッチャカップBC4 個人2位／ペア3位  
 宇津木美都(教育3年)＝杭州アジアパラ水泳競技大会 100m平泳ぎ(SB8)2位／100m背泳ぎ(SB8)2位／400m混合フリーリレー(34pts)2位／400m混合メドレーリレー(34pts)2位

### 【個人・日本】

後迫龍輝(体育4年)＝第8回全日本フルコンタクト空手道選手権大会 男子中量級3位  
 阿部真優(体育4年)＝第62回全日本学生なぎなた選手権大会 個人の部優勝／演技の部優勝  
 河野葵(体育3年)＝第62回全日本学生なぎなた選手権大会 演技の部優勝  
 内田峻介(教育2年・当時)＝第24回日本ポッチャ選手権大会 BC4優勝(※昨年度分)

今年度開催された国内外のトップレベルの競技大会に出場し、優秀な成績を収めた3クラブと9選手に1月23日、学長特別表彰が贈られた。表彰式では、原田宗彦学長らから表彰状などが手渡された。

続いて、原田学長が「この表彰を宝物として持ち続け、素晴らしい人生を歩んでほしい」と称えた。受賞者を代表してハンドボール部女子の藤井愛子主将が「多くのことに打ち込める環境で色々な経験ができ、感謝の気持ちでいっぱいです。体大生としての誇りを持ち、次の目標に向かって歩いていきたい」と感謝の言葉を述べた。

## 大島鎌吉スポーツ賞 楠本教授、浜上准教授に授与



楠本教授

浜上准教授

新年互礼会と大島鎌吉スポーツ賞授与式が1月9日に行われ、本学学生のスポーツ指導に顕著な業績を残した指導者に贈られる大島鎌吉スポーツ賞の功労賞がハンドボール部女子監督の楠本繁生教授、水上競技部女子監督の浜上洋平准教授に授与された。

この賞は本学の初代副学長で1964年東京五輪選手強化対策本部長・選手団長を務めた大島鎌吉氏の功績をたたえて、本学が創立50周年を迎えた2015年に創設された。

選出基準は、功労賞は在任中に五輪・パラリンピック、世界選手権大会、アジア大会の日本代表や日本新記録の樹立、それに匹敵する成績を収めた選手の指導育成に顕著な功績があった指導者。

楠本監督は、本学の石川空選手(体育学部3年)も代表として出場した昨年9・10月のアジア大会で金メダルを獲得。また、ハンドボール部女子は11月の全日本インカレで10連覇を達成した。浜上監督は、指導する宇津木美都選手(教育学部3年)が10月のアジアパラ競技大会の4種目で銀メダルを獲得した。



七尾市の仮置き場で廃棄物を運ぶ学生



支援に向かうバスの車内で、志賀町災害ボランティアセンターの所長から感謝の言葉をいただいた

## 能登半島地震

# 学生40人が復旧支援

能登半島地震で被災した石川県七尾市、志賀町で本学のクラブ生らが3月4日から7日まで、ボランティア活動に取り組んだ。

参加した学生は硬式野球部、サッカー部、ラグビー部、アメリカンフットボール部、バスケットボール部、ライフセービング部、無所属など40人。社会貢献センターが30人の募集枠で参加を呼びかけると72人から応募があり、抽選で40人に絞った。社会貢献センター長の中山健教授（スポーツ社会学）ら教職員4人が同行した。

一行は羽咋市の国立能登青少年交流の家を拠点に、5、6日は七尾市、7日は志賀町で活動にあたった。

七尾市では約10人のグループに分かれ、それぞれ被災者が生活する民家に向かった。被災者の方一人ひとりのニーズを聞いて片付けにあたり、廃棄物や崩れたブロック塀などを仮置き場まで運んだ。家屋は倒壊を免れても室内はタンスなどが倒れたままで、限られたスペースで生活されている方も多くみえた。現地では高齢の方が多く、本学の学生が来て、ようやく重い家財道具の撤去ができたという声も聞いた。廃棄物の仮置き場で仕分け作業にあたった学生は、新品の家財道具が廃棄されているのを見てやるせない気持ちになったという。「全壊」を示す赤い紙が貼られた民家は正月飾りが付けられたままで、元日の発生から時が止まっている状況に、事態の深刻さを改めて感じた学生もいた。

被災者から多くの感謝の言葉をいただき、ミーティングなどでは学生から「感謝されることで自分たちの活動の意義を再確認した」という意見が多数上がった。

また、志賀町では海岸の漂着物を片付けて地元

の区長さんに感謝された。  
陸上競技部の本田結子さん（体育学部3年、岐阜・美濃加茂高校出身）は活動を通じて現地の方



志賀町の海岸で津波による漂着物を片付ける学生

の心の強さを感じたという。高齢者の方の自宅で掃除や片付けをしたが、被災者はつらい状況にも関わらず笑顔で明るく接し、「地震が起きた時は怖くて避難できなかつたけれど、学生さんが来てくれて元気が出た。心からうれしい」と感謝されたという。

本学は2011年の東日本大震災の発生直後から復興支援活動の「サンライズキャンプ」を毎年、福島県南相馬市で実施。高齢者の体力を測定する「お元気度チェック」、子どもたちや地域の方とのスポーツ交流会など、その時々々のニーズに合わせて内容を少しずつ変えながら、「体育大学だからこそできる」支援活動を継続している。

中山社会貢献センター長は「40人もの大人数での支援活動は私たちが活動していた期間では見当たらず、感謝の言葉をいただきました。復興支援に対するニーズは時間の経過とともに変化していきます。今後も被災地のニーズを探りながら、いずれば仮設住宅でのサロン活動や健康支援などの支援活動も考えていきたい」と話している。

# OUHS スポーツキャンプ

子どもや高齢者と学生が交流



サッカー



恒例のOUHSスポーツキャンプ



剣道



ハンドボール



バレーボール



野球



カロリング



卓球バレー

子供たちを中心に幅広い年齢層の地域住民を招いて、本学の学生らとともに様々なスポーツの体験を楽しんでもらおうという恒例のイベント「OUHS スポーツキャンプ」が3月2日、熊取キャンパスで開かれた。

サッカー場で開会式が行われ、主催する本学社会貢献センターの中山健センター長（体育学部教授）が、「初めて体験するスポーツもあるかと思っています。面白いと思えるスポーツと巡り合うきっかけにしてもらえれば」とあいさつ。続いて、サッカー場や体育館といった各スポーツ専用施設を会場に、子供向けと大人向けのスポーツ体験教室が練り広げられた。小学生を対象にした教室には、地域の子供たち約

100人が参加し、サッカー、ハンドボール、剣道を体験するグループ、バスケットボール、バレーボール、野球を体験するグループの二手に分かれ、それぞれ3種目の競技を体験した。

子供たちはサポーター役のクラブ生らとともに競技に取り組み、上達に向けた練習のポイントを学ぶなど、それぞれの競技の面白さを知る機会にしていた。

一方、「健康づくりのためのニュースポーツ」と題した大人対象の教室では、地域の高齢者を中心に、カーリング競技に似た「カロリング」や卓球台を囲む「卓球バレー」といった年齢や体力の有無に関わらず取り組めるスポーツに挑戦し、それぞれ休日の一日を楽しんだ。

## 博士論文発表会



大学院スポーツ科学研究科は1月、2023年度第33回博士論文発表会を開催し、博士後期課程3年の3人が発表した。

1月24日の発表会では、指導教員や大学院生、教職員ら約40人が見守る中、横田文子さん（指導教員・前島悦子教授）が「変形性膝関節症に身体的フレイルを合併した高齢女性の健康関連 Quality of Life」の演題で発表した。

横田さんは、変形性膝関節症（KOA）に罹患した高齢女性と罹患していない高齢女性を対象に、身体的、精神的、社会的側面の健康関連 Quality of Life（QOL、生活の質）を調査し、KOAに罹患した高齢女性は身体的側面では罹患していない方に比べQOLは低下していたが、精神的、社会的側面には差がないことを示した。また、KOAに身体的フレイルを合併

した高齢者についても調査した。フレイルとは健康な状態と要介護状態の中間の段階を指す。KOAに身体的フレイルを合併した高齢者は、合併していない高齢者より身体的、精神的、社会的側面の健康関連QOL全てが低下することを示した。最後に「身体的フレイルを合併したKOA高齢者に対して身体症状の軽減や運動機能の向上を目的とした運動介入を行うことは健康関連QOLの維持向上と介護予防に繋がる可能性がある」と述べた。

続いて、丸谷賢弘さん（指導教員・前島教授）が「ウェアラブルセンサーによる外的・内的運動強度のモニタリング特徴量エンジニアリングと年代別テニスプレーヤーへの応用」の演題で発表した。

丸谷さんは大学生、中高齢者のテニスプレーヤーを対象に、公式戦のプレー中、ウェアラブルウェアラブルセンサーを用いて外的運動強度（走行距離など）と内的運動強度（心拍数など）を調査した結果、加齢に伴い外的運動強度は低下しているものの、内的運動強度は上昇する傾向であること、内的・外的強度の双方で、試合開始直後から10分間は、年齢に関わらず低強度でプレーしていることを示した。

27日の発表会では、小笠原佑衣さん（指導教員・土屋裕陸教授）が「条件統制下における運動負荷が起床時コルチゾール反応に及ぼす影響」の演題で発表した。

それぞれの発表のあとに、活発な質疑応答があった。

## ウィンターキャンプ開催

### 学生14名が小中学生と寝食ともに

ひとり親家庭の子どもを対象にしたウィンターキャンプ2024が1月27、28日の1泊2日で行われた。野外活動部などの学生14名が指導に携わり、大阪府、兵庫県在住の小中学生26名が参加した。

ウィンターキャンプは日本環境教育フォーラムが主催し、本学と受託事業契約を結んだ。キャンプに向けた事前研修では、原田順一氏（みんなのアウトドア）、吉松梓氏（明治大学）に協力頂き、キャンプカウンセラーの心構えや対象者理解を深めた。東京マラソンチャリティ事業として参加費無料とし、今年度は大阪府立少年自然の家（貝塚市）で実施された。

参加した子どもたちは、キャンプ1日目はウォークラリー、野外炊事、キャンプファイヤー、2日目はハイキング、スノードーム作



学生と一緒に晩ご飯づくりにチャレンジする子どもたち



キャンプファイヤーを楽しんだ



ウィンターキャンプに参加した野外活動部、徳田ゼミなどの学生ら

りなどでキャンプを満喫した。子どもたちは最終日に「絶対、来年また来るから」と学生と約束するなど、忘れがたい経験になった。

また、学生は事前研修を重ねてキャンプに臨み、2日間、子どもたちと寝食を共にした。徳田真彦講師は「このキャンプを通して、子どもたちは自然の中でたくさん遊び楽しみ、保護者には少しばかりのレスバイト（休息）になればとの想いを持って開催しました」と話している。

# キャリアフェスタ開催

## 就活支援・4年ぶり対面



4年ぶりに対面で開催されたキャリアフェスタ

1、2年生が将来の夢や目標を考える機会にするキャリア支援イベント「キャリアフェスタ」が2月8日、開かれた。

業界の第一線で活躍する卒業生や民間企業への就職、公務員や教員への採用が決まった先輩の生の声を聞く機会を提供しキャリアへの意識を高めてもらう趣旨で、4年ぶりに対面開催となった。

1年生対象のイベントでは、卒業生の大阪府教育庁教育振興室保健体育課、坂垣友裕さん（37期生）、就職情報大手のマイナビで勤務しながら、本学大学院でスポーツマネジメントを学ぶ元Jリーガーの鹿山拓真さんが講演した。

2年生対象のイベントでは、制御機器大手のキーエンスやスポーツ用品大手のミズノなどの民間企業への内定者、公務員、教員への採用が決まっている4年生30人が、各教室に分かれて講演した。

4年生は自身の経験をもとに就職活動や採用試験対策のポイントを後輩にアドバイスしていた。

# 「学生“夢”プロジェクト」

## 採択2件 報告会実施



報告会でプロジェクトの内容を説明する学生

「学生“夢”プロジェクト」の報告会が2月29日、行われた。

このプロジェクトは学生が主体となって企画・実行する取り組みを大学が支援する制度。申請があったプロジェクトから学生によるプレゼンを経て2件が採択された。

報告会では、体育学部3年の田中良ゼミの学生4人が「全国に轟け！ 私たちの研究成果」と題したプロジェクトの内容を報告した。研究テーマは「小・中学校の熱中症対策の実態について」で、大阪府下を中心に小中学校約10校を調査し、体育の授業、休み時間、部活での活動制限について、ルール化している学校としていない学校があることが分かったなどと報告した。

また、体育学部3年の池島明子ゼミの学生2人が「使わなくなった道具を必要としている人のもとへ」と題した、リサイクル会社を通じて不要になった用具などを外国に送る取り組みを報告した。



◆修了式・卒業式が始まった直後のことでした。「ただいまより令和2年度入学式を執り行います。一同起立！。どよめきながら立ち上がる卒業生。原田宗彦学長が演題の前に進み、「皆さんの入学を許可します。令和2年4月2日、学長、原田宗彦」と入学を許可。「新生」代表の永野優希さんが宣誓の言葉を述べました。

◆卒業生は新型コロナウイルスの影響を大学で一番大きく受けた学年です。入学式は中止になり、6月までキャンパスに入構することすらできず、遠隔授業の日々。大学生生活のほぼ4分の3をコロナ禍の様々な制限下で過ごし、失ったものは大きかったです。一方でオンライン授業など新たな学びも得たと思います。入学式はコロナにほんろうされた学年に贈る、ささやかなサプライズでした。

◆4月2日の入学式。大阪体育大学はスポーツ科学部の1期生を迎え新たな歴史を刻みます。同時に体育学部の2〜4年生、教育学部生は、本学が培った伝統、DNAを継承し、それぞれの夢をめざす新学年が始まります。不確実性の時代、いつ4年前のような困難が再来するかわかりませんが、自らの努力や意識次第で逆境下だからこそ得る学びがあることは卒業生が示してくれています。新入生、在学生の皆さんのご健闘をお祈りします。

【大坪康巳】

## ハワイのIF(イフ)



コラム **ボジャー**

名誉教授 和田隆夫

昨年8月にハワイ・マウイ島で大規模な山火事が発生した。その被害の大きさに驚いたものだが、日本人にとってハワイといえば、新婚旅行である。最近の調査でも未婚女性が希望する新婚旅行先の一位はハワイだった。

もっとも「私は」といえば、ロサンゼルスからの帰路、トランジットでハワイの空港に1時間いただけで、風の穏やかさに南国らしさを感じた記憶はあるものの、これだけである。

こんな体験しかない私だが、ハワイや南太平洋に対してはながく親近感を持っている。始まりは、小学生の頃、日曜の朝にかならず見ていた「兼高かおる世界の旅」にあるが、ハワイに限っては、それ以上に大きな要因がある。それは一つの歴史上のIF(イフ)を考えてしまうのだ。今回はこのIF(イフ)の物語である。

心のざわつくニュースが最近づついていて。その多くは、むき出しの欲望が人間の命と暮らしを奪っているニュースだ。私たちは、野蛮な暴力で欲望を実現する世界を認めてはいないはずだ。しかし人類が積み上げてきた多様性を認める社会はまだ完成していない。現代がポストモダンかスーパーモダンかという議論におかまもなく、モダンは未完のまま新しい帝国主義に逆戻りしているように感じる。

この逆戻りしようとする時代は、武力があればなんでもできる(と考える)時代である。あらゆる手段を使って国が国を、民族が民族を食い尽くす「世界」だった。日本は、そんな「世界」と無縁に暮らしていたが、突然の黒船来航によっていきなりリアルな「世界」に放り込まれてしまった。このときの恐怖とそれに立ち向かう苦闘がどれほどのものか想像すらできない。状況は江戸幕府や明治政府だけでなく、ハワイ王国も同じだった。戦争技術や戦略に長けた欧米列国を相手にして、太平洋に位置する島国とうしよこくの日本、台湾、沖縄、ハワイ、タヒチやその他の太平洋島嶼国が独立を保つことはほとんど不可能だった。

ハワイでは、1795年にカメハメハ一世が建国宣言を出してハワイ諸島を統一した。これがハワイ王国の始まりである。この王朝はきわめて先進的だったようで、カメハメハ三世は1839年に権利章典を發布し、翌年には憲法を公布している。こうしてハワイで立憲君主制がスタートする年にアジアで大事件が勃発する。アヘン戦争である。イギリスの理不尽な言いがかりで始まった戦争は、清側20万人、イギリス側1万9千人の兵力差にもかかわらずイギリスの勝利で終わった。アジア諸国は驚愕した。そのショックで、生き残る道は自国の西欧化しかないというパラダイムシフトが至るところでおこった。ただしハワイ王国はアヘン戦争前からすでに西欧化による近代国家の体裁を整えはじめていた。日本は攘夷から開国、そして文明開化、富国強兵と突き進むことになる。

カメハメハ王朝は、1872年にカメハメハ五世の崩御により終わりを告げた。1873年にルナリロが議会の選挙で国王に選ばれるが、すぐに崩御したため、そのあとカラカウアが選ばれた。カラカウア王朝の始まりである。

アジア情勢が風雲急を告げていることは江戸幕府も自覚していたが、鎖国政策の転換はなかなかすまなかった。それでも1854年にアメリカ合衆国と日米和親条約を締結し、その後列強と同様の不平等条約を結んでいった。そうした中で、あまり知られていないが、1867年にわが国はハワイ王国(カメハメハ五世)と日布親善協定を結び、翌年153名の移民がハワイに渡っている。

カラカウア国王は、国際情勢を冷徹に見るリアリストの側面と豊かで意表を突く発想をするプランナーの側面を合わせもつ有能な政治家だったと思う。たとえばサモアとのポリネシア連合を計画したが、アメリカ系移民によるクーデターで頓挫したことは残念だった。これもハワイのIFの一つだ。実現したときの太平洋の状況をつい考えてしまう。多様な世界を考えれば、現存してほしい国である。

彼は1881年に世界一周の旅に出た。もちろん観光目的ではなく、ハワイ王国の生き残りをかけた旅である。イギリスではビクトリア女王と会談している。最初の訪問国は日本だった。明治政府にとっては最初の国家元首の訪問である。このときカラカウア国王は45歳、明治天皇は29歳である。列強が虎視眈々と領土的野心を持ってうろついている時代に、この極東の島国の天皇と太平洋の真中の島国の国王がどのような会話をしたのか、二人にどのような心の交流があったのか、興味はつきない。

このとき国王からいくつかの提案があったといわれている。まず日本とハワイの連邦国家および日本主導によるアジア共同体の創設、つぎに婚姻の提案、さらに移民の要請などであった。婚姻の提案とは国王の姪のカイウラニ王女と山階宮定磨王(のちの東伏見宮依仁親王)の婚姻である。まさに連邦化への道を探る政略結婚の誘いだった。

日本側はこの提案に対して、移民以外は丁重に断っている。これが実現していたら歴史は大きく変わっていた可能性がある。ここにハワイのIFがある。たしかに日本主導によるアジア共同体の創設はあまりにも荷が重すぎるが、日本とハワイの連邦化の提案はどうだろう。私には魅力的な提案に思える。もし実現していたら真珠湾攻撃はなかったわけで、日米戦争のあり方が大きく変わっていただろう。それにそもそもABCD包囲網といわれた構図自体が大きく崩れてしまう。日本・ハワイ連邦は世界一の海洋国家になっていたはずである。

もちろん歴史は違った。1887年にアメリカ系移民によるクーデターが発生して、カラカウア国王は、アメリカ系移民の参政権を大幅に認める新憲法を押しつけられた。銃剣憲法と言われている。そのあと彼は退位した。日本政府は、1893年に在留法人保護の名目で、東郷平八郎艦長の巡洋艦浪速などをホノルル湾に派遣してアメリカを牽制したが、1894年にアメリカ系移民による政府転覆がおこり、王政は廃止され、ハワイ共和国が生まれた。この共和国は傀儡政府で、1898年にアメリカ合衆国に準州として併合されてしまう。そして日本は1941年にハワイ(オアフ島真珠湾)を攻撃し、1945年に降伏した。



**本物**を学び、極める

## 大阪体育大学

---

【大学院】

- スポーツ科学研究科  
博士（前期・後期）課程

---

【スポーツ科学部】（1年）

- スポーツ科学科

【体育学部】（2～4年）

- スポーツ教育学科
- 健康・スポーツマネジメント学科

【教育学部】

- 教育学科

---

大学事務局

庶務部、教学部、入試部、広報室  
キャリア支援部、大学院事務室

大学附置施設等

図書館、スポーツ局、社会貢献センター  
情報処理センター  
スポーツ科学センター  
国際交流センター、学習支援室

---

<https://www.ouhs.jp/>

OUHS ジャーナル 2024年(令和6年)4月1日(月)

発行所：大阪体育大学 広報室 発行責任者 大坪康巳 協力：教育後援会・学友会  
大阪府泉南郡熊取町朝代台 1-1 電話(072)453-7021 FAX(072)453-8818